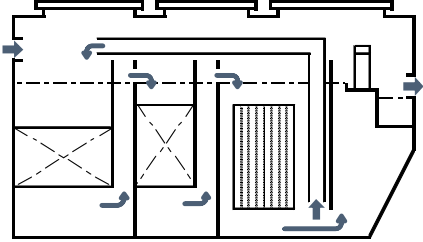


事例 2 3 浄化槽電子カルテシステムによる水質改善事例（清掃）

1. 基本情報および概要図


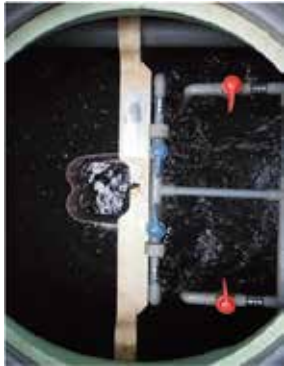
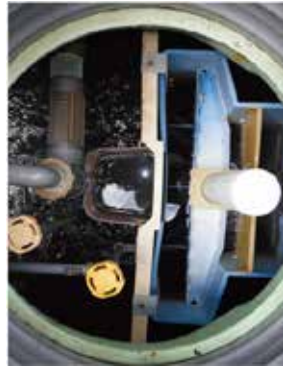
処理方式	構造例示型 嫌気ろ床接触ばっ気	作業予定月	
メーカー／型式	フジクリーン工業(株)／LP型	清掃	8月
人槽／使用人員	6人槽／3人使用	保守点検	10・2・6月
日平均汚水量	0.54m ³ /日	法定検査	4月

清掃時の設定状況(平成27年8月21日)			概要図 
	メーカーの基本設定	保守点検の設定	
空気逃がしバルブ	全閉	全閉から1/4回転開	
移送水量	2.0~5.0 L/分	0.0 L/分	
LP型の特徴			
構造例示型	構造や容量が同じ基準で設計されている		
1次処理1室	ろ材内部を強制攪拌する空気配管がある		


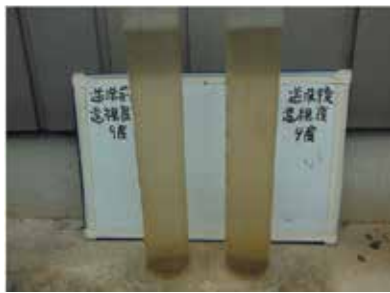

2. 過去の測定結果と清掃時の引抜き状況

			放流水透視度(度)	1次処理1室		1次処理2室		2次処理		清掃時の引抜き状況		
				スカム厚(cm)	堆積汚泥厚(cm)	堆積汚泥厚(cm)	流出水透視度(度)	堆積汚泥厚(cm)	有効容量	1次処理	2次処理	
平成25年度	清掃	8月22日	<u>16</u>	15	29	24	7			1.902m ³	1.617m ³	
	保守	10月15日	<u>23</u>	1	2	3	14	0		全量	全量	
平成26年度	清掃	8月26日	<u>18</u>	14	25	20	6	3		全量	0.8m ³	
	保守	10月16日	<u>21</u>	0	3	3	12	0	1室へ移送する	0.4m ³		
平成27年度	清掃	8月21日	<u>23</u>	17	26	21	9	2		全量	0.2m ³	
	保守	10月14日	<u>41</u>	1未満	1	1	23	1	堆積汚泥を引抜く			

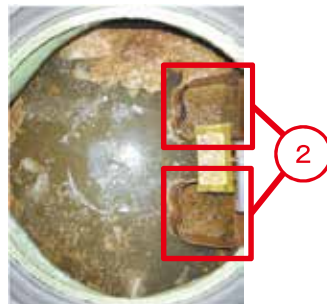
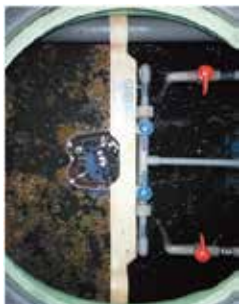

3. 清掃時の槽内写真(平成27年8月21日)


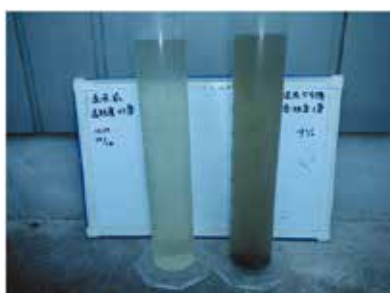

1次処理1室	1次処理2室/2次処理	2次処理/沈殿槽
		
流入 強制攪拌用の空気配管 ① 26年度より汚泥移送は停止	2室にガスが浮いている	26年度清掃時の放流水透視度 18度→23度に向上 放流

清掃時の槽内状況(平成27年8月21日)

逆洗後の状況	2次処理槽内水と剥離汚泥	2次処理清掃口
① 	② 	③ 
剥離汚泥は少ない	左:逆洗前 右:逆洗後 透視度9度で変化は無い	堆積汚泥引抜き後 水位 -13cm

4. 清掃2か月後、保守点検時の槽内状況(平成27年10月14日)

1次処理1室	1次処理2室/2次処理	2次処理/沈殿槽
④ 	⑤ 	⑥ 
白濁し流入負荷は高い	2室へ汚泥が移動している ②	堆積汚泥厚1cm

15分逆洗後の状況	2次処理槽内水と剥離汚泥	放流水
⑦ 	⑧ 	⑨ 
剥離汚泥は多い	左:逆洗前25度 右:逆洗後2度	放流水透視度41度に改善

5. 作業時のポイント(平成27年度)

清掃 8月21日	清掃作業による水質改善は過去の作業内容の結果を踏まえ実施する 処理機能の立ち上がりに留意し、2次処理水に含まれる微生物を活用した引抜き作業を行う
保守点検 10月14日	水質は改善していたが、2次処理に汚泥が生成していたため逆洗を15分実施後、汚泥を沈降させてから移送を行う

6. 清掃2か月後、保守点検の結果(平成26年度と比較)

1)放流水透視度21度→41度に改善する
2)2次処理堆積汚泥厚0cm→1cmに増加する
【1次処理】1・2室:骨格様球状ろ材
【2次処理】板状接触材